

令和7年度滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 令和7年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ33校50科、定時制課程1校1科。特色選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ18校18科であった。
- 推薦選抜、特色選抜合わせて5,608人（スポーツ・文化芸術推薦選抜133人を含む）が出願し、2,997人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.02倍であった。また、出願変更率は5.5%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】> ※（ ）は前年度であり、以下同様。

- 出願状況
募集枠 2,173人
出願者数 2,043人 出願倍率：0.94倍（0.99倍）
- 受検状況および入学許可予定者
受検者数 2,042人
入学許可予定者数 1,856人 合格率：90.9%（87.3%）

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

- 出願状況
募集枠 1,146人
出願者数 3,565人 出願倍率：3.11倍（3.16倍）
- 受検状況および入学許可予定者
受検者数 3,563人
入学許可予定者数 1,141人 合格率：32.0%（31.8%）

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

- 出願状況
募集枠 186人
出願者数 133人 出願倍率：0.72倍（0.66倍）
- 受検状況および入学許可予定者
受検者数 133人
入学許可予定者数 122人 合格率：91.7%（91.1%）

<一般選抜・学力検査>

- 出願状況
出願者数 6,727人（6,896人）
確定出願者数 6,688人（6,870人）
確定出願倍率 全日制1.05倍（1.06倍）、定時制0.46倍（0.53倍）
全・定合わせて1.03倍（1.04倍）
- 出願変更状況
出願変更者数 370人 このうち39人は出願辞退者
出願変更率 5.5%（5.5%）
（1）学科別出願変更率では音楽学科が100%と最も高かった。（前年度は音楽学科の100%）
（2）学校出願を除く普通科の出願変更者数は214人で、出願変更率は5.7%（4.8%）
- 受検状況
受検者数 6,678人 受検倍率 1.02倍（1.03倍）
全日制6,554人 1.05倍（1.05倍） 定時制124人 0.46倍（0.53倍）
- 入学許可予定者
（1）学力検査による入学許可予定者数 5,923人 合格率88.7%（89.1%）
（2）入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および小学科 28校38学科（25校28科）

<二次選抜>

- 二次選抜募集の学校・学科および募集定員
全日制23校31科454人、定時制5校7学科146人。全・定合わせて28校38学科600人
- 出願状況
出願者数 104人 出願倍率 0.17倍（0.24倍）
- 受検状況
受検者数 103人 受検倍率 0.17倍（0.24倍）
- 入学許可予定者
入学許可予定者数 102人 合格率 99.0%（95.3%）

<入学許可予定者総数および実入学者数>

- 入学許可予定者総数 9,022人
- 実入学者数 9,018人
- 定員充足率 94.7%（95.7%）

令和 7 年度滋賀県立高等学校入学者選抜
結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

令和7年度滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

目 次

I 全日制の課程および定時制の課程

1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	・・・	1
	(1) 推薦選抜、特色選抜の結果	・・・	1
	(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	・・・	2
	(3) 一般選抜の結果	・・・	2
	(4) 入学者選抜の結果	・・・	3
2	学科別の受検者数、入学許可予定者数等について	・・・	4
3	一般選抜における出願変更者数について	・・・	5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	・・・	5

II 単位制 転・編入学、通信制の課程 ・・・ 6

III 一般選抜学力検査

1	出題の方針等	・・・	7
2	配点等	・・・	7
3	検査成績	・・・	7
4	その他	・・・	7

【各教科の分析】

国 語	・・・	8
数 学	・・・	10
社 会	・・・	12
理 科	・・・	14
英 語	・・・	16

I 全日制の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について ※中高一貫教育に係る人数は除く

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校（普通教育を主とする学科15、専門学科11、総合学科7 のべ33校）、定時制課程の1校（普通教育を主とする学科1）であった。特色選抜実施校は、15校（普通教育を主とする学科14、専門学科4 のべ18校）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月5日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中95校（昨年度106校中97校）、特別支援学校中学部13校中0校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は19校（昨年度10校）であった。全日制の出願者数は、普通科で682人（昨年度722人）、森の探究科で6人、みらい共創科で16人、農業学科で156人（昨年度184人）、工業学科で274人（昨年度320人）、商業学科で326人（昨年度327人）、家庭学科で84人（昨年度91人）、体育学科で42人（昨年度49人）、美術学科で45人（昨年度42人）、総合学科で402人（昨年度415人）であった。定時制は普通科の10人（昨年度12人）となった。この結果、出願者数合計は、2,043人（昨年度2,162人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では0.95倍（昨年度0.93倍）、森の探究科では0.30倍、みらい共創科では0.80倍、専門学科で1.01倍（昨年度1.11倍）、総合学科では0.82倍（昨年度0.85倍）、定時制の普通科は0.83倍（昨年度1.00倍）となり、実施学科全体では0.94倍（昨年度0.99倍）であった。この結果、1,856人が入学許可予定者となり、合格率は90.9%（昨年度87.3%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中98校（昨年度106校中100校）、県外の中学校は9校（昨年度12校）であった。出願者数は、普通科で3,460人（昨年度3,520人）、理数学科で59人（昨年度93人）、音楽学科で27人（昨年度30人）、文理探究学科で19人（昨年度22人）であった。この結果、出願者数合計は3,565人（昨年度3,665人）となり、出願倍率は、普通科では3.28倍（昨年度3.30倍）、専門学科では1.17倍（昨年度1.61倍）となり、実施学科全体では3.11倍（昨年度3.16倍）であった。この結果、1,141人が入学許可予定者となり、合格率は32.0%（昨年度31.8%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて2,997人が入学許可予定者となり、合格率は53.5%（昨年度52.4%）であった。（表1参照）

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目			募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数 C	合格率 C/B' (%)
学科		割合 (%)		人数 A'						
推薦選抜	主として普通教育を とする学科	普通	2,440	20～30	716	682	681	0.95	658	96.6
		森の探究	40	50	20	6	6	0.30	6	100
		みらい共創	40	50	20	16	16	0.80	16	100
		普通(定)	40	30	12	10	10	0.83	10	100
		小計	2,560		768	714	713	0.93	690	96.8
	専門学科	農業	400	50	200	156	156	0.78	147	94.2
		工業	720	50	360	274	274	0.76	264	96.4
		商業	520	50	260	326	326	1.25	260	79.8
		家庭	80	40	32	84	84	2.63	32	38.1
		体育	40	85	34	42	42	1.24	34	81.0
		美術	40	75	30	45	45	1.50	30	66.7
		小計	1,800		916	927	927	1.01	767	82.7
	総合学科		1,240	* 30～40	489	402	402	0.82	399	99.3
	合計		5,600		2,173	2,043	2,042	0.94	1,856	90.9
特色選抜	**	普通	3,520	30	1,056	3,460	3,459	3.28	1,056	30.5
	専門学科	理数	80	50	40	59	59	1.48	40	67.8
		音楽	40	75	30	27	27	0.90	27	100
		文理	40	50	20	19	18	0.95	18	100
		小計	160		90	105	104	1.17	85	81.7
	合計		3,680		1,146	3,565	3,563	3.11	1,141	32.0
総合計		9,280		3,319	5,608	5,605	1.69	2,997	53.5	

* 信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）。

** 特色選抜普通科は、推薦選抜同様、普通教育を主とする学科を示す。

※追検査受検者（4人）については、推薦選抜のそれぞれの数値に含む。

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

スポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の19校（普通教育を主とする学科11、専門学科6、総合学科3 のべ20校）であった。このうち、推薦選抜実施校は16校（普通教育を主とする学科7、専門学科6、総合学科3）、特色選抜実施校は、全日制課程の4校（普通教育を主とする学科4）であった。

受検者数133人に対して、入学許可予定者数は122人となり、受検者数に対する合格率は、91.7%（昨年度91.1%）となった。

(3) 一般選抜の結果

一般選抜は、学力検査定員6,523人に対し、確定出願者数は6,688人であり、確定出願倍率は1.03倍であった。また、受検者数は6,678人であり、受検倍率は1.02倍であった。この結果、5,923人が入学許可予定者となり、合格率は88.7%であった。

二次選抜は、二次選抜定員600人に対し、受検者数は103人であった。この結果、102人が入学許可予定者となり、合格率は99.0%であった。（表2参照）

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

年度		令和7年度	令和6年度
項目			
学力検査	学力検査定員 A	6,523	6,637
	出願者数	6,727	6,896
	確定出願者数（倍率）	6,688 (1.03)	6,870 (1.04)
	受検者数 B（倍率）	6,678 (1.02)	6,855 (1.03)
	不合格者数 B－C	755	748
	入学許可予定者数 C	5,923	6,107
	合格率 C／B(%)	88.7	89.1
二次選抜	二次選抜定員	600	530
	出願者数	104	129
	受検者数 D（倍率）	103 (0.17)	129 (0.24)
	不合格者数 D－E	1	6
	入学許可予定者数 E	102	123
	合格率 E／D(%)	99.0	95.3
入学許可予定者数合計 C＋E		6,025	6,230

※追検査受検者（8人）については、学力検査のそれぞれの数値に含む。

【参考】学科の区分について

学科区分	大学科	小学科
普通教育を主とする学科	普通科	－
	森の探究科	－
	みらい共創科	－
専門学科	農業学科	農業科, 食品科, 園芸科(長浜農業) 農業科, 食品科, 花緑科(湖南農業) 農業科, 食品科, 花緑デザイン科(八日市南)
	工業学科	機械科, 電気科, 化学工業科(瀬田工業) 機械科, 電気科, 環境化学科(八幡工業) 機械科, 電気科, 建設科(彦根工業)
	商業学科	総合ビジネス科, 情報システム科(大津商業) 商業科, 国際経済科, 情報処理科(八幡商業)
	家庭学科	家庭科学科(大津)
	理数学科	理数科(膳所、米原)
	文理探究学科	文理探究科(高島)
	体育学科	体育科(草津東)
	音楽学科	音楽科(石山)
	美術学科	美術科(栗東)
総合学科	総合学科	－

(4) 入学者選抜の結果

県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,022人であった。全日制では募集定員9,240人に対して入学許可予定者数8,885人、定時制は募集定員280人に対して入学許可予定者数137人となった。

入学許可予定者数の内訳は、推薦選抜1,856人、特色選抜1,141人、スポーツ・文化芸術推薦選抜122人、一般選抜5,923人で、二次選抜102人であった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,018人で、募集定員の94.7%（昨年度95.7%）となった。（表3参照）

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	令和7年度			令和6年度
		全日制	定時制	合 計	
* 県内中学校卒業予定者数				13,775	13,968
募集定員 A		9,240	280	9,520	9,680
推薦選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,846	10	1,856	1,885
特色選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,141	-	1,141	1,158
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		122	-	122	112
一般選抜入学許可予定者数		5,799	124	5,923	6,107
二次選抜入学許可予定者数		99	3	102	123
総計	入学許可予定者総数	8,885	137	9,022	9,273
	実入学者数 B	8,882	136	9,018	9,262
	定員充足率 B/A(%)	96.1	48.6	94.7	95.7

*県内中学校卒業予定者数は、令和7年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、森の探究科、みらい共創科、農業学科、工業学科、商業学科、音楽学科、文理探究学科、総合学科の9学科（昨年度5学科）であった。（表4および別表参照）

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目 \ 学科			普通	森の探究	みらい共創	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	文理探究	総合	
募集定員 A			9,520	6,120	40	40	400	800	520	80	80	40	40	40	40	1,280
推薦選抜	募集枠（人数）		2,173	728	20	20	200	360	260	32	－	34	－	30	－	489
	受検者数 B		2,042	691	6	16	156	274	326	84	－	42	－	45	－	402
	入学許可予定者数 C		1,856	668	6	16	147	264	260	32	－	34	－	30	－	399
	合格率 C/B(%)		90.9	96.7	100	100	94.2	96.4	79.8	38.1	－	81.0	－	66.7	－	99.3
特色選抜	募集枠（人数）		1,146	1,056	－	－	－	－	－	40	－	30	－	20	－	
	受検者数 D		3,563	3,459	－	－	－	－	－	59	－	27	－	18	－	
	入学許可予定者数 E		1,141	1,056	－	－	－	－	－	40	－	27	－	18	－	
	合格率 E/D(%)		32.0	30.5	－	－	－	－	－	67.8	－	100	－	100	－	
一般選抜	学力検査	学力検査定員	6,523	4,396	34	24	253	536	260	48	40	6	13	10	22	881
		確定出願者数	6,688	*3,768	11	**	255	428	268	69	**	**	0	**	**	818
		受検者数 F	6,678	*3,762	11	**	255	427	267	69	**	**	－	**	**	816
		入学許可予定者数 G	5,923	4,076	11	20	245	427	259	48	32	6	－	10	15	774
		合格率 G/F(%)	88.7	***	100	***	96.1	100	97.0	69.6	***	***	－	***	***	94.9
	二次選抜	二次選抜定員	600	320	23	4	8	109	1	－	8	－	13	－	7	107
		出願者数	104	*88	0	**	0	12	0	－	**	－	0	－	**	4
		受検者数 H	103	*88	－	**	－	12	－	－	**	－	－	－	**	3
		入学許可予定者数 I	102	77	－	1	－	12	－	－	8	－	－	－	1	3
		合格率 I/H(%)	99.0	***	－	***	－	100	－	－	－	－	－	－	***	100
総計	入学許可予定者数		9,022	5,877	17	37	392	703	519	80	80	40	27	40	34	1,176
	実入学者数 J		9,018	5,876	17	37	391	702	519	80	80	40	27	40	34	1,175
	過不足 J－A		－502	－244	－23	－3	－9	－98	－1	0	0	0	－13	0	－6	－105
	定員充足率(%)		94.7	96.0	42.5	92.5	97.8	87.8	99.8	100	100	100	67.5	100	85.0	91.8
前年度定員充足率(%)			95.7	96.5	－	－	100	93.6	100	100	100	73.0	100	72.5	90.3	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科または、普通科とみらい共創科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科または、普通科とみらい共創科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、学力検査それぞれの追検査受検者を含む。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	みらい共創	普通	美術	普通	文理探究
一般選抜	学力検査	学力検査定員	364	40	224	6	89	24	121	10	130	22
		確定出願者数	440		302		77		122		130	
		受検者数	440		302		77		122		130	
		入学許可予定者数	315	32	224	6	56	20	110	10	115	15
	二次選抜	定員	49	8	-		33	4	11	-	15	7
		出願者数	33		-		9		2	-	4	
		受検者数	33		-		9		2	-	4	
		入学許可予定者数	25	8	-		8	1	2	-	3	1

3 一般選抜における出願変更者数について

出願者数6,727人に対し、出願変更者数は370人（昨年度380人）で、出願変更率は5.5%（昨年度5.5%）となり、確定出願者数は6,688人であった。

各学科別の出願変更率は、音楽学科の100%が最も高く（昨年度の最高は音楽学科の100%）、次に、商業科の11.5%であった。（表5参照）

表5 学科別の出願変更者数

項目 学科		学力検査 定員	出願者数 A	出願 変更者数 B	出願 変更率 B/A(%)	確定 出願者数 C	(昨年度)	
							出願 変更者数	出願 変更率 (%)
* 普通		3,468	3,784	214	5.7	3,768	188	4.8
森の探究		34	12	1	8.3	11	-	-
農業		253	249	20	8.0	255	33	11.9
工業		536	411	13	3.2	428	13	2.8
商業		260	279	32	11.5	268	22	7.9
家庭		48	74	6	8.1	69	11	14.1
音楽		13	4	4	100	0	4	100
総合		881	827	33	4.0	818	38	4.6
学校 出願	普通・理数	404	441	16	3.6	440	4.7	5.5
	普通・体育	230	312	19	6.1	302	12.2	5.6
	普通・みらい	113	78	3	3.8	77	-	-
	普通・美術	131	126	8	6.3	122	2.0	2.2
	普通・文理	152	130	1	0.8	130	0.8	2.2
合計		6,523	6,727	370	5.5	6,688	380	5.5

*普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、愛知高等学校の1校1科であった。実技検査を実施した学校は、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の2校2科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

Ⅱ 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し13人（昨年度15人）が入学許可予定者となり、0.33倍（昨年度0.38倍）の倍率となった。二次選抜では、4人（昨年度1人）が入学許可予定者となり、合計17人（昨年度16人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では181人の出願者（昨年度181人）に対して、181人（昨年度181人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、43人（昨年度34人）が入学許可予定者となり、合計224人（昨年度215人）が入学許可予定者となった。

（表6参照）

表6 募集定員，出願者数，入学許可予定者数等

項目 年度			一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合 計	
			募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A(%)		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
令和7年度	単位制	転編入	40	14	13	0.33	0	4	4	17	-23
		通信制	320	181	181	0.57	0	43	43	224	-96

令和6年度	単位制	転編入	40	15	15	0.38	0	1	1	16	-24
		通信制	320	181	181	0.57	0	34	34	215	-105

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。また、各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、基礎的な英語を聞くことや読むことを通して他者の考えや文章の内容を正しく理解する力や、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は、国語57.7点、数学45.4点、社会45.9点、理科41.1点、英語43.1点であった。

4 その他

インフルエンザ等および月経随伴症状等による体調不良にかかる令和7年度滋賀県立高等学校入学者選抜配慮申請実施要領を作成し、受検生や保護者、中学校関係者がわかりやすいように周知した。この要領に従い、学力検査の追検査や特別検査場での受検を実施し、受検機会を確保した。

令和7年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、言葉を正確に理解し適切に表現する基礎的な力をみるようにした。また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「文章量、文章の難易度は適切で、受検者が取り組みやすい問題だった」という意見がみられた。一方、「出題の意図を汲みとりにくい問題があった」という意見もみられた。各設問については、□は、「今日的なテーマを扱いながら、論理的な思考力をみる良問であった」という意見がある一方、「得点しやすい問題が多かったのではないか」という意見もあった。△は、「作文問題は、何をもって正答とするか等、採点基準が難しい」という意見があった。○については、「難度が適切である」という意見もある一方で「漢字の問題の難度が少し低い」といった意見もみられた。

3 解答の分析

全体を通して、基礎的・基本的な知識を問う問題は、概ね正答率は高かった。また、本文内容に関する選択肢問題も比較的正答率が高かった。一方で、論理の展開を的確に捉えて文章の内容を理解し表現する力を問う記述問題や、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈して対比的に表現する記述問題の正答率が低かった。誤答例の報告をみると、傍線部の文章内容や出題の意図を的確に捉え、記述する部分を取捨選択することができていない解答が多かったようである。

□は、ロボットと人間の関係について書かれた文章を素材にして、文脈の中における語句の意味を的確に捉える力、論理の展開を的確に捉えて文章の内容を理解し表現する力、文章の要旨や表現の工夫について考察する力をみる問題であった。

文章内容について選択肢で問う問題については正答率が高かったが、論理の展開を的確に捉えて文章の内容を理解し表現する力を問う記述問題の正答率は低かった。文章の中心的な部分と付加的な部分の関係や、事実と意見との関係などを正確に捉えたり、論理の展開を踏まえて筆者の意図を的確に把握して表現したりするような学習が求められる。

△は、ベルリンでの暮らしについて書かれた文章を素材にして、文章の展開に即して内容を捉える力、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して表現する力をみる問題であった。

目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈して対比的に表現する力をみる問題や、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題の正答率が低かった。目的に応じて表現の仕方を選択して文章を書いたり、多様な読み手を意識して説明や具体例を加えて内容が適切に伝わるように工夫して文章を書いたりする学習が求められる。

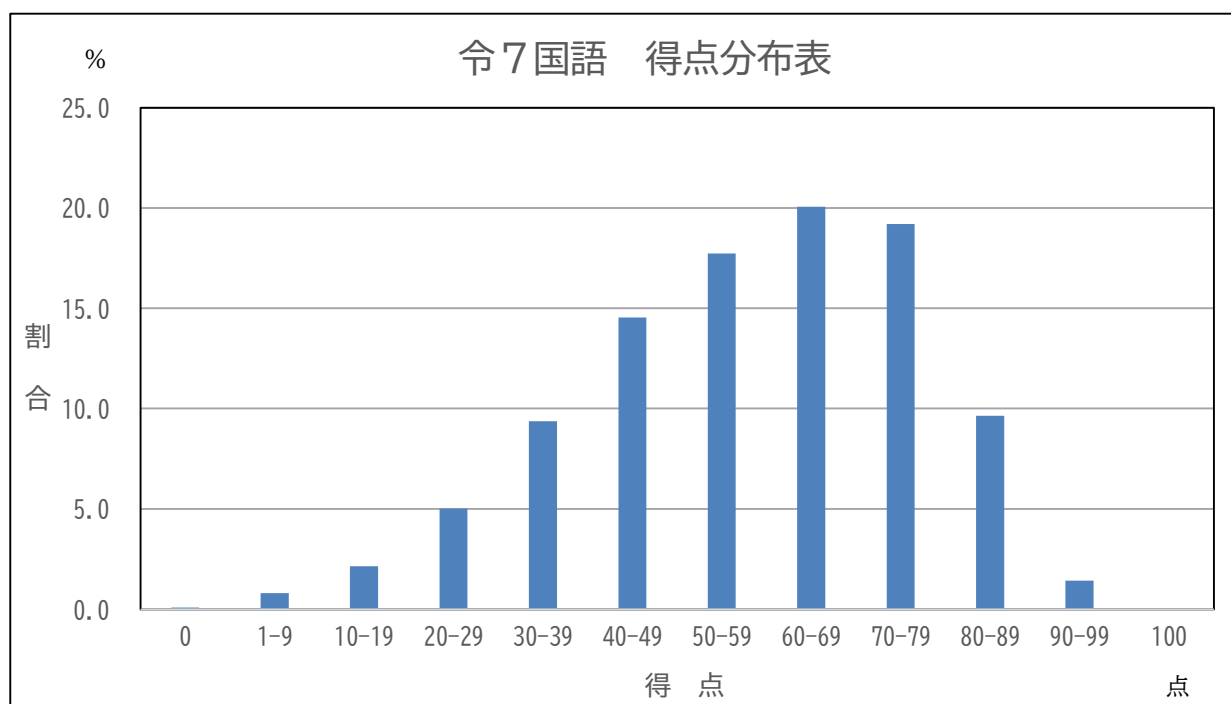
○は、文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力、敬語や単語の類別に関する知識、古典を理解する基礎的な力をみる問題であった。

敬語や単語の類別に関する知識をもとに解答する問題の正答率が低かった。学習した敬語、単語の類別に関する知識を日頃から積極的に活用するとともに、伝統的な言語文化について幅広く学習することが求められる。

問題区分		正答率 (%)
一	1	76.8
	2	18.8
	3	20.1
	4	52.9
	5	83.8
二	1	63.6
	2	46.0
	3	40.5
	4	23.2
	5	36.2

問題区分		正答率 (%)
三	1	① 65.8
		② 83.7
		③ 78.6
		④ 40.1
		⑤ 73.5
	2	① 77.4
		② 94.6
		③ 62.4
		④ 93.1
		⑤ 96.2
	3	① 47.8
		② 50.9
	4	① 84.4
		② 62.4
		③ 84.0

年度	平均点	標準偏差
令和7年度(100点満点)	57.7	18.7



令和7年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。また、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「具体的な値から抽象的な概念を形成していく過程が見られる良問であった」「計算力と数学的な表現力を問う問題が適量存在し、バランスの取れた設定であった」などという意見があった。各設問については、「①は、基礎的な力を測れる良問であった」「②は、中学校の学習内容の理解度を測るのに適している良問であった」「③は、様々な考え方ができる良問であった」「④は、問題解決能力や、文章を読み取る能力を問う良問であった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的事項や概念については、概ね理解できている。一方で、基礎的・基本的な数と式の計算や図形の性質に関する知識・技能が身に付いていない受験生も見られた。また、題意を正確に読み取り数式やグラフを用いて数学的に表現・処理する問題や、図形の性質について自分の言葉で表現し説明する問題になると正答率が大幅に下がった。基礎的・基本的な知識および技能を身に付けるだけではなく、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や実験などにより、数や図形の性質を見だし、見いだした性質を発展させるような活動を通して知識および技能を相互に関連付けて体系的に学ばせることにより、題意を正確に読み取り数学的に表現する力や、習得した知識を活用する思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

①では、中学校3年間で学ぶ基礎的・基本的な知識および技能を問う問題を幅広く出題した。比較的に正答率が高く、基礎的・基本的事項や概念については、概ね理解できている。ただし、基礎的な内容を問う問題であっても、円錐の側面積を求める問題や、等式を変形する問題等については正答率が下がる。基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、処理する力の育成が望まれる。

②は、平面図形を題材にし、方程式を用いて辺の長さを求める問題や、2点を通りある直線に接する円を作図する問題、平行四辺形の性質を利用した証明問題、線分の長さの比について、図形の性質を活用し、論理的に考察する力や数学的に表現する力を問う問題であった。図形の性質を用いて、数学的に表現する問題の正答率が低く、図形の性質について暗記するだけではなく、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

③は、2乗に比例する関数のグラフについての基礎的・基本的な知識および技能を問う問題や、図形の性質を活用して、数学的に表現し処理する力を問う問題であった。関数についての基礎的・基本的な知識を問う問題についても正答率が低く、関数の式やグラフの意味を理解し、適切に活用していく力を育成することが望まれる。

④は、奇数の書かれたカードを規則的に並べる場面を取り上げ、規則をもとに、数理的に表現する力や、論理的に考察する力を問う問題であった。文字式を使って説明したり、論理的に考察したりする必要がある問題の正答率が低く、粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

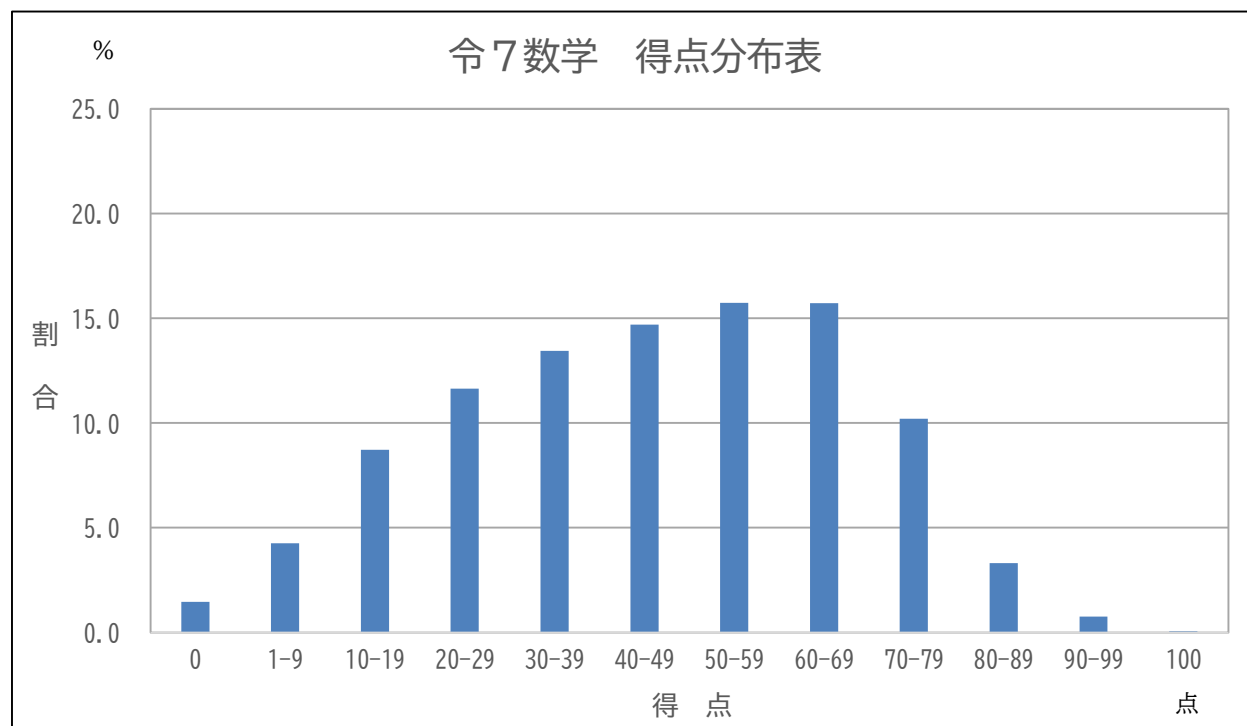
数 学

令和 7 年度

問題区分		正答率
1	(1)	92.3
	(2)	85.5
	(3)	58.1
	(4)	76.9
	(5)	78.3
	(6)	63.5
	(7)	37.3
	(8)	50.5
	(9) 最頻値	68.1
	(9) 階級	82.9

問題区分		正答率
2	(1)	66.7
	(2)	20.9
	(3) ①証明	20.0
	(3) ②	2.6
3	(1)	64.6
	(2)	44.2
	(3) ①	10.8
	(3) ②	1.0
4	(1)	71.5
	(2) ア	51.3
	(2) イ	47.9
	(2) ウ	14.4
	(3)	1.7

年度	平均点	標準偏差
令和 7 年度(100点満点)	45.4	21.8



令和7年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に定められた内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得をみるようにした。また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「『知識・技能』の設問と『思考・判断・表現』の設問が各分野から幅広く出題されている」「地図や写真、グラフなどの複数の資料を読み取り、思考力や判断力を問う問題が多かった」などの意見があった。各設問については、**①**は、「自動車の生産という1つのテーマから、世界と日本の産業的特色をバランスよく出題し、資料やグラフを用いて、思考力・判断力を問うものであった」。**②**は、「日本における学問や教育をテーマに、古代から現代にわたってバランスよく出題され、資料を読み解き、思考力・判断力を問うものであった」。**③**は、「国民生活と経済をテーマに、景気や金融政策などに関する基本的な知識だけでなく、滋賀県の取組を題材にして、資料を読み取り、適切に表現できる力を問うものであった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体的に、基礎的・基本的な知識および技能を用いて解答する問題の正答率が低かったことが特徴的である。また、知識や概念を組み合わせる正答を導いたり、資料から適切な情報を取り出したりして、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみる問題の正答率も低く、これらの力が十分に身に付いていないと考えられる。図表やグラフから解答に必要な情報を正確に読み取り情報を取捨選択する力や、読み取った情報と蓄積した知識から判断し表現する力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識および技能を正確に身に付けたうえで、社会的な見方・考え方をはたらかせ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成することが望まれる。

①は、グラフや地図などの資料をもとに、世界や日本の地域的特色についての理解をみるとともに、各地域の構成や産業的特色について、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。複数の資料から読み取れることと、地理的事象を結び付け、論理的に判断する力や、資料から適切な情報を取り出し、地理的な見方・考え方をはたらかせて、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

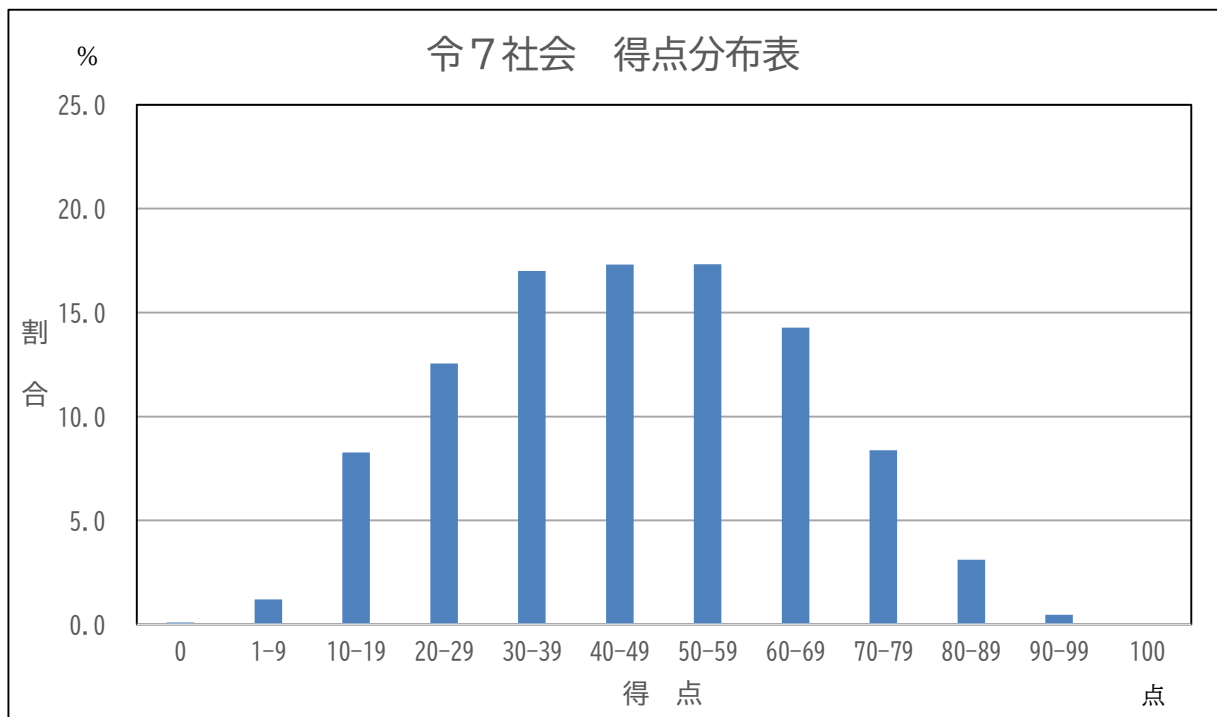
②は、写真や略年表などの資料をもとに、古代から現代に至る各時代の政治、経済、文化についての理解をみるとともに、近世における教育について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせる問題で正答率が低かった。知識の習得とともに、歴史的な見方・考え方をはたらかせて、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

③は、図やグラフなどの資料をもとに、国民生活と経済についての理解をみるとともに、地方財政における住民の生活の向上に向けた取組について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を適切に文章にまとめる問題で正答率が低かった。日頃から身近な地域や日常生活と関連付けながら、現代社会の課題に関心を持ち、現代社会の見方・考え方をはたらかせて、考察し表現する力を育成することが望まれる。

問題区分			正答率
1	1		70.3
	2		44.9
	3		39.0
	4	(1)	34.0
		(2)	50.1
	5	(1)	30.4
		(2)	23.7

問題区分			正答率
2	1		30.8
	2		41.3
	3		34.2
	4		35.1
	5		51.8
	6		10.3
	7	(1)	70.1
		(2)	52.7
3	8		19.4
	1	(1)	71.0
		(2)	38.6
		(3)	56.8
	2	(1)	38.5
		(2)	37.2
		(3)	65.4
	3	利点	9.9
		課題	42.2

年度	平均点	標準偏差
令和7年度(100点満点)	45.9	19.3



令和7年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験や調べ学習を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、原理を説明し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「実験から得られたデータを適切に処理する力が必要な問題であり、身の回りの事物・現象を文章で表現する力が問われている」「基礎的な知識を問う問題から、思考力や表現力を問う問題が出題されている」などの意見があった。各設問については、「日常生活と関連させて考えることができるかを問う出題であった」「定量的な実験データやグラフから必要な情報を読み取ることができるかを問う出題であった」などの意見があった。

3 解答の分析

物理、化学、生物、地学、の各分野において、基本的な知識や理解を問う問題や、自然の仕組みや現象について理解を問う問題については正答率が高く、科学的な事象に関する基本的な知識は定着していると考えられる。一方、実験や観察の結果より、データやグラフ等について科学的に考察し、それを論理的に説明することを求める問題については正答率が低かった。自然の事物や現象について、比較することで問題を見いだしたり、科学的な根拠に基づいて論理的に文章表現ができる力が必要である。

①は、水溶液の溶解度における実験を通して、物質による溶解度の違いや物質の分離方法に関する理解をみる問題であった。実験操作の手法に関する知識をみる問題については正答率が高かった。一方、物質を分離する原理を問う問題や実験結果を考察し説明する問題では正答率が低かった。水溶液や濃度について理解し、特徴を見いだして表現する力の育成が望まれる。

②は、力と運動についての調べ学習を通して、力学台車の運動についての理解をみる問題であった。図から実験データを読み取り、力学台車の平均の速さを求める問題は正答率が高かった。一方、物体にはたらく力の作図や、物体にかかるエネルギー変化について、根拠に基づいて説明する問題は正答率が低かった。実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、課題を解決したりする力の育成が望まれる。

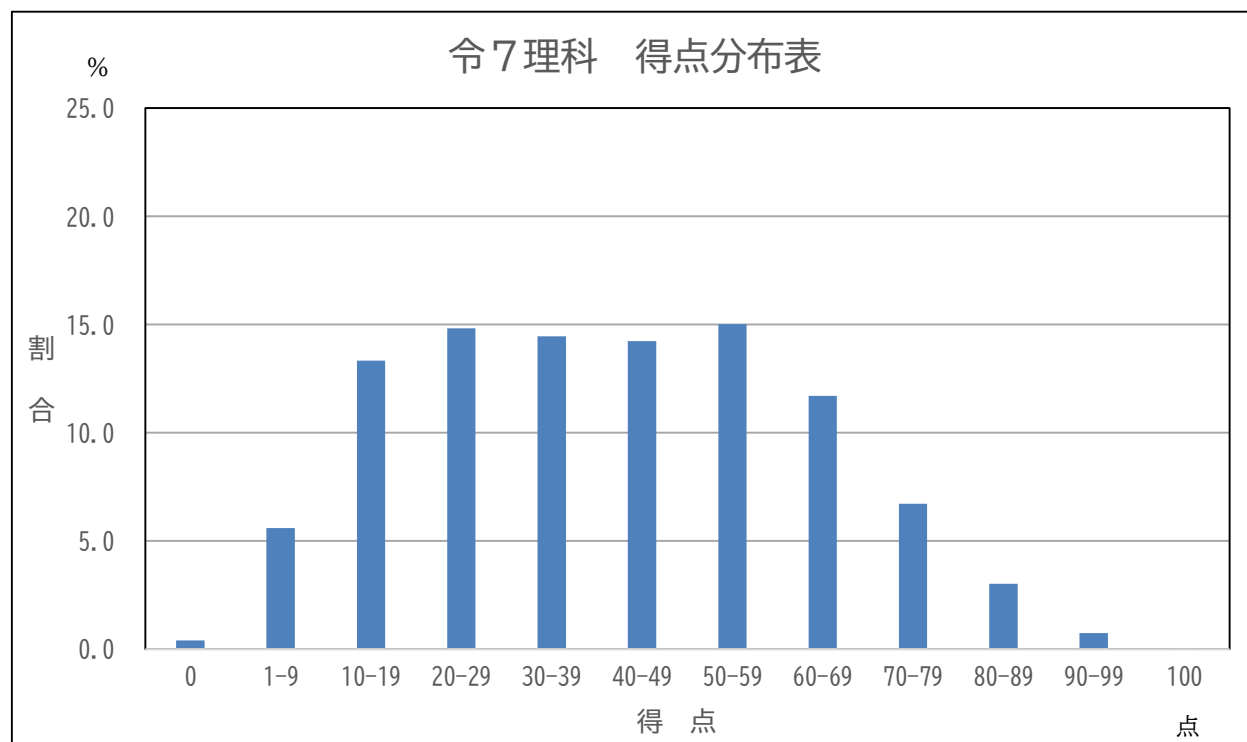
③は、デンプンと消化酵素の反応実験と調べ学習を通して、ヒトの体のつくりとはたらきについての理解をみる問題であった。ヒトの消化器官に関する基本的な問題は正答率が高かった。一方、養分の貯蔵に関する理解や実験操作を説明する問題では正答率が低かった。実験結果より、規則性や課題を見だし、自然の事物・事象を科学的に説明できる力の育成が望まれる。

④は、太陽の動き等における実験を通して、天体の規則性についての理解をみる問題であった。太陽の1日の動きに関する基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、太陽の動きの規則性について説明する問題では正答率が低かった。身近な自然現象における原理について、科学的に説明できる力の育成が望まれる。

問題区分		正答率
[1]	1	47.6
	2	47.2
	3 (1)	74.9
	3 (2)	46.0
	4	80.1
	5 記号	30.4
	5 理由	7.9
[2]	1	35.9
	2	51.0
	3	45.1
	4	2.3
	5	30.9

問題区分		正答率
[3]	1	62.2
	2	8.7
	3	45.0
	4	54.5
	5	21.2
[4]	1	83.3
	2	35.1
	3	38.8
	4 記号	23.2
	4 理由	9.4

年度	平均点	標準偏差
令和7年度(100点満点)	41.1	21.6



令和7年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したりする力をみるようにした。また、英語を聞くことや読むことを通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら、考えなどを形成する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な知識・技能を問う問題や、様々な情報や資料を整理して解答する問題があり様々な能力を評価する問題だった」「『聞く・読む・話す・書く』の四技能を意識した問題であった」という意見があった。各設問については、「複数の資料や情報を整理して、必要な情報を適切に読み取る力が問われている」「論理の流れを踏まえて思考し、思考した内容を整理して表現できるかを問う問題であった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、英文や資料の中から必要な情報を抜き出す問いについては正答率が高かった。基本的な内容を読んだり、聞いたりする力が身に付いており、中学校の授業における知識・技能面での指導の成果が伺える結果であった。一方で、文意を正確に理解したり、英文の趣旨を把握したりする問いや、自分の考えを英語で述べる問いについては正答率が低かった。日頃より、自分の考えや意見を英語で論理的に伝えたり、相手の考えや思いを理解したりするような学習が行われることが望まれる。

①の聞き取り問題では、聞き取った情報から、単純に答えを導き出す問いの正答率が高かった。一方で、複数の情報を整理して答えを導き出す必要がある問いや、聞き取った内容の趣旨を掴む問いの正答率が低かった。語句や文単位で聞き取るだけでなく、まとまりのある文章として英文を理解する力を育成する言語活動が望まれる。

②は、「国際会議の開催案内のウェブサイト」、「そのウェブサイトを見ながら話す二人の会話」、「国際会議に参加する生徒の発表原稿」など様々な種類の英文を読む問題であった。話の概要を把握する問題については正答率が高かった。一方で、文脈に合うように適切な語や文を補充する問いは正答率が低かった。語彙を正しく書く力や前後の流れや話の展開を意識しながら英文を読む言語活動の充実が望まれる。

③は、「世界遺産についてのスピーチ」と「スピーチを聞いた先生の話」を読んで、話の概要を捉えたり、読んだ内容について、英語で表現したりする問題であった。本文中の適切な位置に文章の流れに合う文を補充する問いは正答率が比較的高かった。一方で、話の要点を理解し、タイトルを選ぶ問題は正答率が低く、読みながら情報を整理したり、複数の情報から大意を掴んだりする思考力に課題が見られた。加えて、自分の身近なテーマについて意見を述べる問題についても正答率が低く、平易な語句を用いて自分の意見を表現する言語活動の充実が求められる。

④は、将来英語だけを学びたいか、英語以外の言語も学びたいかという問いかけに対して、自分の考えとその理由を書く問いであった。正答率は低く、読み手が伝わるように理由を適切に記述することに課題が見られた。自分の考えを理由や根拠を用いながら表現する言語活動の充実が望まれる。

問題区分			正答率 (%)
[1]	その1	1	42.8
		2	76.0
		3	45.9
		4	57.1
	その2		45.9
	その3	1	61.2
		2	17.1
		3	57.8
		4	13.7
	2	1 (1)	46.5
		1 (2)	53.6
		2	62.8
		3	6.8
		4	56.8
		5	10.5
		6	24.5
		7	21.8

問題区分		正答率 (%)
[3]	1	18.6
	2	51.2
	3	65.3
	4	44.5
	5	47.6
	6	31.5
	7	41.7
	8	17.7
[4]		16.7

年度	平均点	標準偏差
令和7年度(100点満点)	43.1	24.2

